

終戦
63周年

憲法9条生かす 平和の貢献を

スポーツと平和の祭典——オリンピックが北京で開催されているなか、戦後63回目の終戦記念日をむかえました。

日本共産党は、日本のひきおこした戦争の犠牲となった内外の人々に深い哀悼の意を表します。侵略戦争に命がけで反対した党として、「戦争はしない」「軍隊はもたない」という戦後日本の原点にたった国づくりに力をつくす決意です。

世界にひろがる平和の波

“平等、内政不干涉、紛争の平和的解決”をきめた東南アジア友好協力条約(TAC)は、地球人口の57%をしめる25カ国が参加。ユーラシア大陸全体にひろがっています。こうした平和の共同体づくりの波は、南北アメリカ大陸やアフリカにもひろがり、地球全体をおおう巨大な流れとなっています。



アフガニスタンでも、イラクでも 武力だのみのアメリカの野望は破たん

アフガン戦争から7年、イラク戦争から5年。強力な軍隊をいくら投入してもテロと暴力の悪循環はひどくなるばかり、解決の糸口すら見えません。軍事力で世界を制覇しようとするアメリカの野望の破たんはあきらかです。

いま 日本の姿勢が問われています

日本は、アメリカにいわれるままに自衛隊を海外派兵してきたばかりか、さらに米軍に協力するために、海外派兵恒久法までつくろうとしています。戦後日本の出発点にそむくだけでなく、世界の平和の流れに逆行する道です。

日本共産党は、アメリカいいなりの政治を転換し、
憲法の平和・民主の原則にそって世界に貢献する
日本をきずくために全力をつくします。



日本共産党